

# SDS ゲートキーパー養成講座 報告書

2023 年 6 月 11 日

報告者：山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座

**開催日時：**2023 年 5 月 19 日（金）15 時 00 分～16 時 00 分

**開催場所：**宇部市文化会館 3 階 文化ホール

**参加定員：**会場 300 名程度

**参加対象者：**宇部市民生児童委員協議会総会 参加者（民生委員・児童委員）

**参加申し込み方法：**宇部市障害福祉課へ申し込み

**開催形式：**会場参加のみ

**講演者：**山口大学医学部社会連携講座 山根俊恵教授

**参加人数：**会場参加者 273 名

## 概略：

早期に SDS（Social Distancing Syndrome：社会的距離症候群、偏見や誤解を生まない用語として、いわゆる「ひきこもり」に代わる用語として提案）の当事者やその家族に気づき、思いを傾聴し、苦悩を理解して適切な支援機関につなげ、見守る「SDS ゲートキーパー」の養成、また SDS に関わる支援者のスキルアップ事業の一環として、本講演が開催された。

## 内容：

令和 5 年度宇部市民生児童委員協議会総会において、ひきこもり支援の第一人者である山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座 山根俊恵教授により、「さまざまな生きづらさとひきこもり～民生委員・児童委員に望まれること～」の講演をしていただいた。

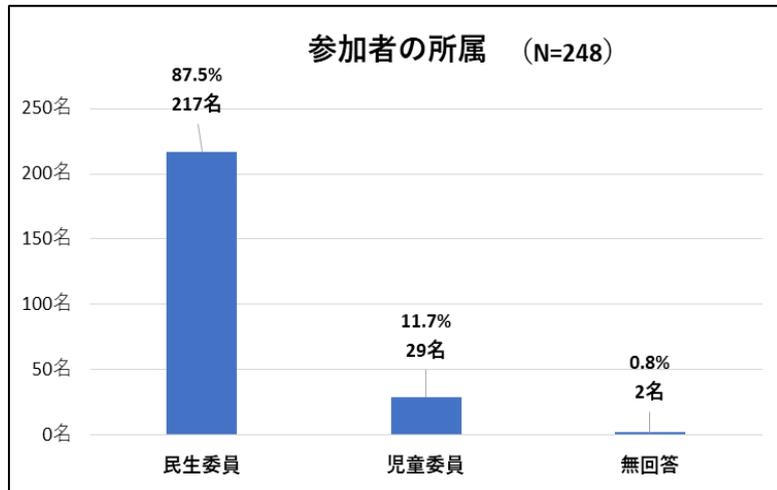
以下、終了後のアンケート結果（p2～9）を添付する。

# SDS ゲートキーパー養成講座アンケート集計結果

## 回収状況

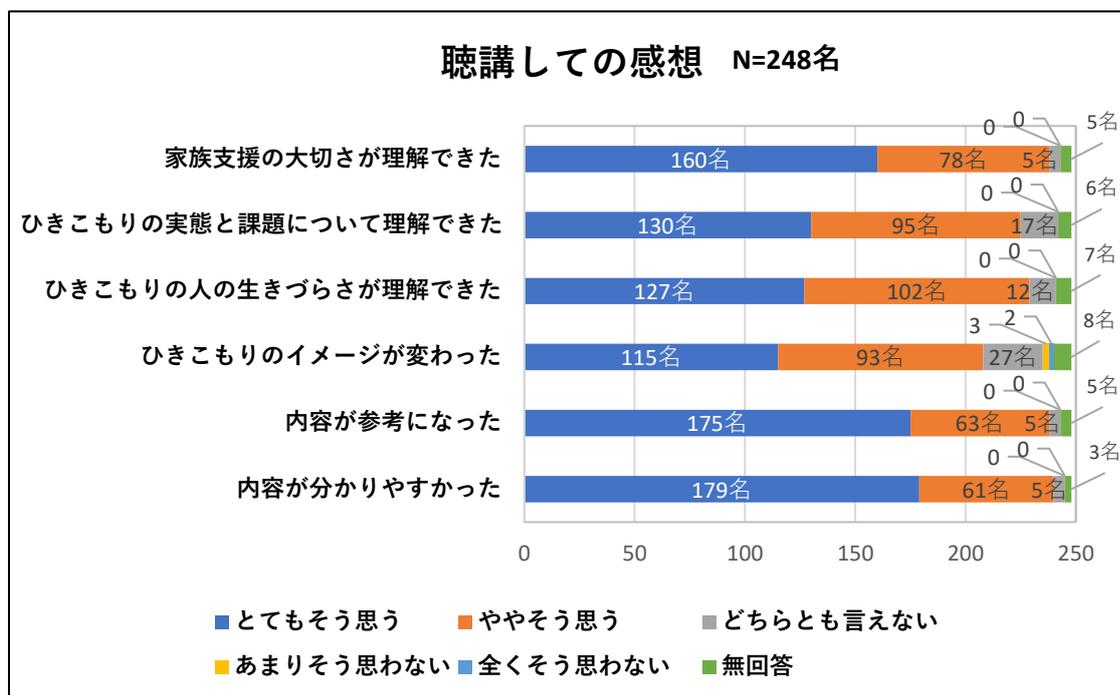
参加者 273 名にアンケート用紙を配布し、248 枚の回答を回収した（回収率 90.8%）

## 1 参加者の所属



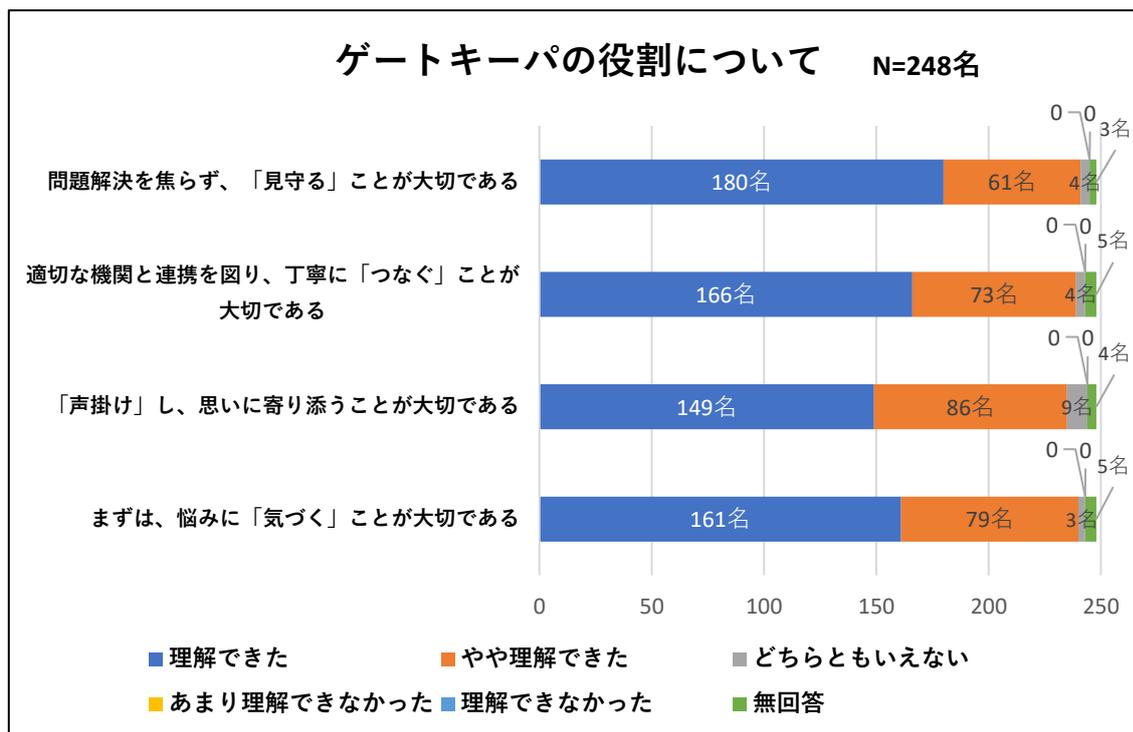
「民生委員」217名、「児童委員」29名、「無回答」2名であった。

## 2 聴講しての感想



[とてもそう思う]・[ややそう思う] の肯定的な回答は、上から順に、96.0%、90.7%、92.3%、83.9%、96.0%、96.8%であった。

### 3 役割についての理解



[理解できた]・[やや理解できた] の回答は、上から順に、97.2%、96.4%、94.8%、96.8%であった。

### 4 講座を受講して、今後、ひきこもり当事者やその家族から相談を受けた際に、気をつけたい事や実践したい事 111 の記述を得た

対話が大切。
とにかく話をよく聴いてきいてきく事から始めることが大切である事がよくわかった。
近所に9060の方がいるが、ご両親が元気で、心配しないでほしいと言われ続けている。自分達で解決されようとしている。このまま片親になるまで遠くから見守るしかないかな！！
講座は理解できたが、どの様に対応したら良いか解らない。ひきこもりから脱却出来た様々な成功例を聞きたい。
対処ではなく対応と言う所がこれから活動する上でとても大切な事であると言う事を再認識した。
ひきこもり状態そのものが、そのままでも良いと思いながら話を聞いてゆく姿勢が大切だと思います。
遠まきにひきこもりを知った時どう声かけをしていくのか気になっています。←相談ですみません。
まずはゆっくり相手の方のお話を理解しようと思います。

個人個人の原因の違いを勉強しました。中々関わる事のむずかしさを感じます。自分の感情でしゃべらないようにします。
焦らずさわがず見守る。つながりを切らない事。何かあればすぐかけつけられるように準備しておく。
積極的にかかわって行きたいが、相手を理解することから始めたい。否定をしないことから始めたい。
親と会話をした時
担当機関と連携をとりながら、指導・指示をあおぎながら進行してゆきたいと思います。
声のかけ方
なんでも相談に応じ関連機関を紹介する。海南町見学できますか？
相手に対し普通にできて当たり前であるとは対応するのではなく、相手の心を理解することが必要、今からは心のケアが必要とします。
当事者、家族に寄りそい、話を聞いているだけにまずはとどまり、共感しようと思う。
寄り添うこと、話をしっかり聴くこと、見守りつづけること。安心して話してもらえる人でありたいです。
まず理解する。(言葉では簡単ですが行動はどのように…)
まず相手の話をよく聞く事から始めようと思います。
家族や本人とのまじわりがむずかしい
ひきこもりに限らず、本人を何とかしようとするだけでなく、本人の状態、考え、意志を知り、気づき、私達が変わっていくことが必要だと思った。
上から目線、決め付けを行っていないかを常に意識し、会話が続けられるよう努めたい。
民生委員として、“ふらっとコミュニティ”がとても心強く感じます。今後、相談先として心にとめておきたいと思います。
無理じいをしないこと
解決をしようとするのではなく、話を聞く事を最優先にする。→相談窓口が有る事を理解してもらい、話し合いが出来るよう見守る。→
自分の価値観を押し付けしないで、しっかり共感しながら話を聴くことを心がけたい。あせらずゆっくり見守り続けたい。
傾聴・否定しない・説教しない
自分たちの勝手に思い込んでいる社会常識というものをまずは取り払ってから対応できたらと思いました。
単純に動かない
他の委員と考えや行動を共有しあう。
声をかける時の言葉の選び方、相手を思いやる事の大切さ、難しさ等よくわかりました。
知っているふりをしない。当事者の話を聞いてあげられる(相談を受けられる)様になりたい。
こうあるべきという自分の考えをもたず相手によりそい話を聞く
まず相談してもらえそうな立場になる事が一番だと理解した。
相手の気持ちになる事

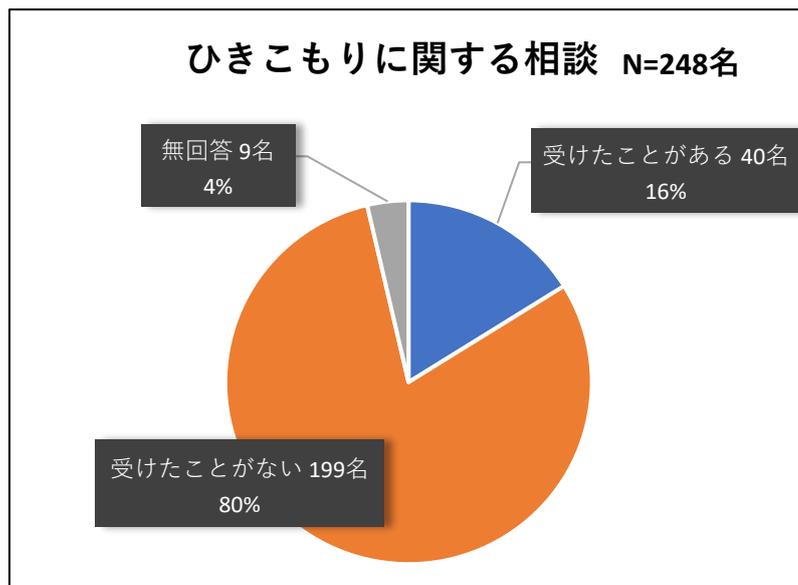
無理に自分だけで何とかしようと思わない。
相手を責めることにならないように言葉を選ぶことが大切。
まず、相談者の話をよく聞いて一緒に考えるようにする。(家族の立場で)
連けい出来るように支援したい。
当事者に対する言葉や態度に気をつけることが 接触にあたり大切に意識すべきことだと思いました。
すぐつなぐではなく、理解者になれるように思いを理解して信頼関係を作っていきたいと思います
相手に寄り添った声掛けが大切だと思いました。
ひきこもり当事者でなく家族からの相談には特に注意し、悩んでいる事を家族・本人にきちんと分けて整理しそれぞれについて「つなぐ機関」を判断したい。
否定しない。少しずつ近づく。
ひきこもり個人の家が安全安心な所である、という事。
まずは相談します。
とにかく聞くことに注力する。
まず傾聴。こちらからの押し付けの言葉を返さないこと。
経験不足の私に適切な対応が出来るかどうか、とても心配です。
まだ、理解不足で記入する内容が思いつきません。理解ができるように、再度講座を受講してゲートキーパーになれる事を希望しています。
心に寄り添う事を心がける！！
一般論・自分の価値観はダメ！とりあえずは??おかしい?に気づくことが大事。否定しない会話術、表情
様子や状況を見守り、自分自身が学習したい。適切な支援機関につなげる。
見守り、声かけしてよく話を聞くことが必要と思います。
NPO 法人ふらっとコミュニティを紹介したい。
・関係箇所の連絡。・自分の考えで対応しない。
こちら側の思いを伝えるのではなく、相手を理解したいと思いました。
係わり方に気を付け、対処するのではなく対応する
傾聴の大切さ、信頼関係を築くことが大切だと思いました
参考にしたい。
相手の心によりそえることばや行動をとれるようにしたい。
まず思いを聞き受け止める、その上でつなぐ。
「何とかしてあげなきゃ」という自己の思いを抑えながら、上から目線の言葉にならないように相手の理解が得られるように当事者と接していきたいと思うようになった。
大変勉強になりました。引き続き講演をきく機会があればと思う。
声をかける時、上から目線にならないこと。まずは寄り添うことを第一に人間関係構築にこころがけたいと思う。
声かけ、見守りの大切さを理解していたつもりでしたが、少し手前勝手な考えがあるのかなと気づきました。今後も自分の姿勢を振り返ってみたいと思います。

あせらず、あわてずゆったりと見守り、「～あるべき」「～あなたのためよ」など上目線で見ないこと、困っている人、苦しんでいることを共感する。相手を変えようとしなくて自分自身を変えることが大切である。
当事者やその家族の相談内容を理解するよう努めたい。
仕事をしたいが決まらない、をひきこもり事態というのか判らない。仕事を与えてくだされば生活も変わると思う～協力者がいない事が悩みです。
親ががんばればがんばるほど～、という言葉がとてもササりました。
人嫌い、孤独生活をしている当事者への最初のアプローチは難しいと思う。
大変難しいと思う。
話を聴く、傾聴に努める、どうしたいかコーチングする、言動に気を付ける
しっかり、お話を聞きたいと思います。
相手の気持ちになっての声掛け
近所にいらっしゃるので、まずはお話を聞いてあげたいと思います。
あせらず、よく話を聴く
私、民生委員になってまだ半年です。「ひきこもり」についての相談に対して自分は受けとめる器が出来てなくて、受けとめるには新米で勉強と経験を体験しないと相談相手にはなれない現在です。
ていねいに接したい。
おしつけは良くない、まず聞くこと
何とかするは二の次に、心の声を聞くように心がけたい。
家族支援はとても難しいと思う。自分の言葉できずつかれても…足ぶみする
話を聴く、つなぐ
対応や言葉かけに大変な責任があるので、専門機関の人と一緒に話を聞きたい。
理解はできたと思うけど、言葉として相手に向け方としてはまだ自信がない。とにかくしばらくは話を聞いてあげるとかないのかも
ひきこもる本人を理解する大切さが後につながることがよく分かりました。
当事者にはどの様に声をかけたらよいのか？家族にはどう接したら良いのか？
否定せずただ聞く。とにかくご家族の話聞く。話し相手となるだけ。
相談者の話を良く聞き、苦しみを理解する。相談先を知らせる。
よく話を聴いて関係機関につないでいきたい。(人間関係を育てて)
焦らない。
問題解決を焦らず「見守る」ことの大切さ、相手ではなく自分が変わることの大切さを感じました。
特にありません。
きく、理解する、よりそう大切さがわかった。
家族の方の気持ちを理解し、自分で分からない事があれば南部総括支援センターなど相談してみる。
傾聴する、見守る

時間をかけて見守っていく
他の期間と連携をしっかりととり、オープンなコミュニケーションをとりたいと思う。
気づく・声掛け・よりそう・つなぐ・見守る一連の流れ、一度でも経験できればと思う。グループ討議の機会があればと思う。
あせらず、時間をかけて対応していきたい。
本人との面会及び面談はむずかしいので、ご家族からの伝言や励ましの言葉をメモして渡すこと。他人（世話人）からの言葉や言動で受け入れられるものが一部あり本人に手紙を渡すこと。
相手の気持ちにどうよりそうかが課題だと思った
つながっていく、おしつけがましくしない
対応方法（会話を含む）がわからない
ひきこもりだけでなく自分自身にもそんな言い方やだなど思うことは多々あるのでそこに気づき心がけて対応する必要がある、大切と思った
改めて「ひきこもり」の問題のむずかしさがわかった。実際に自分が相談された時、どうしたら良いか悩むと思う。
決めつけをせず、話を聞いてあげる。親御さんのサポートをしてあげる。見守っていく。
民生委員新人であり、あせりもありましたが、まずは“つながる”ことから行動していこうと感じました
何のかかわりもない、まず関りのスタートが不安
本日の研修内容をよく勉強して臨みたいと思います。

## 5 ひきこもりに関する相談

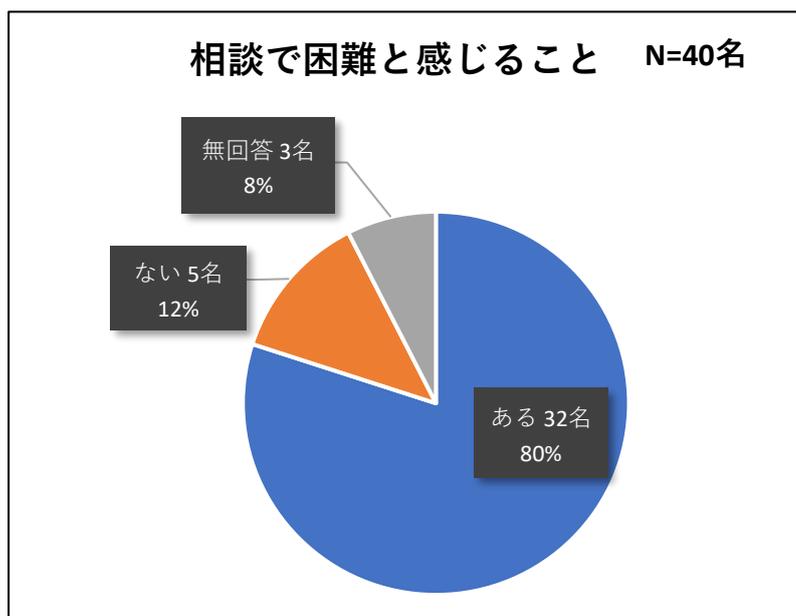
「受けたことがある」40名（16.1%）、  
「受けたことがない」199名（80.2%）、  
「無回答」9名（3.6%）であった



## 6 相談で困難と感ずること

対象は、ひきこもりに関する相談で、  
「受けたことがある」と回答した40名

困難と感ずることが「ある」32名  
（80.0%）、「ない」5名（12.5%）、「無  
回答」3名（7.5%）であった



ひきこもりに関する相談を受けたことがある40名で、更に29の記述を得た

本人に直接会うことができない。こちらから入っていくことに迷いがある。
本人の心が閉じ込もっていて、話ができない。
声のかけ方
1回は相談に行かれるが、次につながらないことが難しい。

周りが一生けん命になっても家族が熱心にならない
ひとりで対応は難しかったので先輩委員等に相談した。
相談をされた。その先に進めることが出来ずにいた（行政に伝えることいやがられた）
孫のことでおばあちゃんからで、親としっかり話すことができない
一度ひきこもってしまうと外に出て行く初めの一步を踏み出すのにとっても時間がかかるように感じました
個人情報をどこまで考慮するか。
社会との関わり、就労、生活費、健康 本人（単身者、両親は死亡）は受け入れてくれたが何事に対しても意欲がない。
友人のお子さんなのでへたな事言えない。
親が隠そうとして口外しない、門前払いをする。
訪問しても玄関のドアが開かない。なかなか親、本人に会えない状態である。
本人との会話がまったく出来ない。
相談を受けた母親と仲良くなり、話を聞く事が出来、市が介入していただきましたが改善ない、が、仕事には行けないが外出（買物、散歩）する事が出来ました。
（問4と同じ）人嫌い、孤独生活をしている当事者への最初のアプローチは難しいと思う。
困っている人の言葉の本当の心がわからなかった。
自分の身内の分 相手が親せき
つなぐ場所がわからなかった。どうすれば良いか かかわり方がわからなかった。
聞き流すことの難しさ
家に来ないでほしいと言われた
本人に気持ちがなかった。
（別校区の件で相談を受けたことがある）親がかくす。
本人に担当者が会うことができない
本人及びご家族との距離感に大きく差異があり、本人感情を最優先に考え、対応及び世話をしたが、大きな成果が達成できなかった。（反省点）
心を開かない
支援を受け入れてもらえない。自分に知識がなくどうしたら良いかわからなかった
親も子も困っている事を言わない